

<HP 公開>

研究題目	看護学生の活動度と自己効力感との関連
研究機関名	名古屋大学医学部保健学科看護学専攻
研究責任者氏名・職名	榊原久孝 教授
個人情報管理者	榊原久孝
生命倫理審査委員会承認番号	

【背景・目的】

看護師は、人間関係を基盤として病む人を援助する専門職であり、人と相互作用を持ちながら問題を解決していく能力が求められる。看護学生は、比較的他学部の学生に比べ、コミュニケーション能力の高い人が多く、何かしらのコミュニティーに所属している人が多いと思われるが、人それぞれであり、今後人と積極的に関わっていかなければならないであろう実習の際に、人との関わりを苦手とするがゆえ、患者との継続的な関わりを苦痛に感じている生徒もいるだろう。そこで今回、看護学生がサークル活動やアルバイト、ボランティア等に参加し、継続することと自己効力感との関連を明らかにすることで、今後、自己効力感を高めていくためにどのようなアプローチができるか明らかにし、豊かな生活を送るための手助けをすることを目的とする。

【研究方法】 無記名・自記式アンケートにより横断研究を実施する。

【対象者】 名古屋大学医学部保健学科看護学生 2、3年 約 150名

【研究期間】 倫理審査会で承認が得られた日～平成 29年 3月 31日

【実施方法】

アンケートは名古屋大学医学部保健学科大幸キャンパス内で実施し、講義終了後の時間を活用して行う。講義担当教員に事前許可を得たうえで、調査対象者に説明書、質問紙を配布し、本研究の目的、方法、倫理的配慮を説明し、回答した質問紙は回収ボックスに投函していただく。

【倫理的配慮】

アンケートは無記名自記式で行い、アンケートの回収をもって、本研究の参加に同意していただいたものとみなす。調査対象者には大学生ではあるが未成年者も含まれるため、研究概要について HP に公開することで、親権者または未成年後見人が拒否できる機会を保障する。アンケートの回答内容は、本研究以外の目的では使用しない。また、研究の発表や論文作成に関しても、個人を特定できるような情報は一切公開しない。回答いただいたアンケート用紙は、本研究期間中は榊原研究室の鍵のかかったロッカーに厳重に保管し、電子データ化したアンケートの回答内容は、第三者に情報が公開されないよう、パスワードをかけて USB メモリに保存する。研究終了時はすみやかにシュレッダーにて廃棄処分する。